



インド株式市場の振り返りと今後の見通し

ポイント

- ① 足元のインド株式市場について
- ② 国内外投資家の売買動向と企業業績について
- ③ インドの金融政策について

① 足元のインド株式市場について

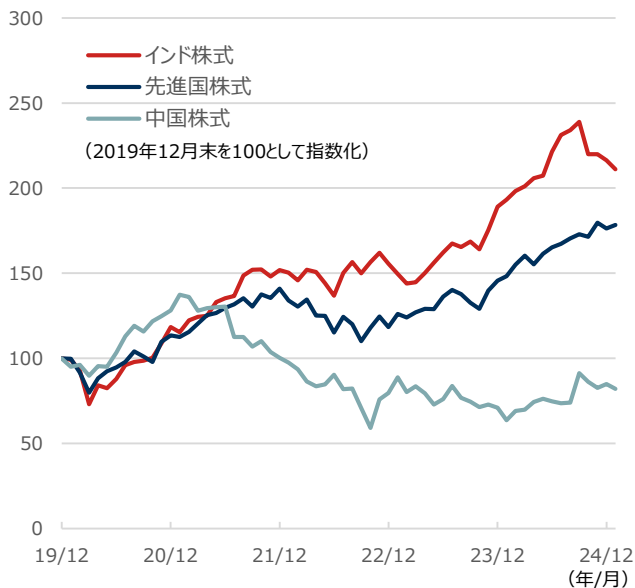
2024年9月末以降のインド株式の調整要因

インド株式市場は2024年9月に高値をつけた後、調整局面となっています。株価調整の主な要因は以下の3つと考えられます。

- ① 中国の景気刺激策期待からインド株式の利益確定売りが加速（2024年9月末～10月中旬頃）
- ② インドの景気や企業業績の鈍化、及び利下げ見送り（2024年10月中旬～12月上旬頃）
- ③ 米長期金利上昇、米利下げペース鈍化懸念を背景としたリスク回避（2024年12月中旬以降）

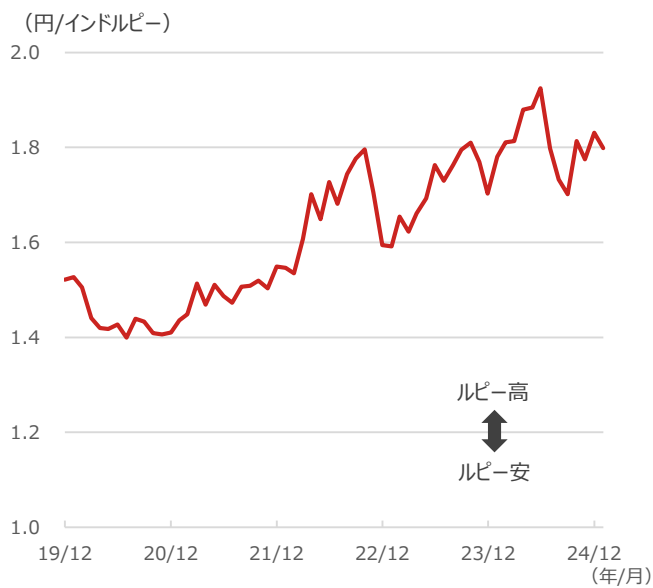
特に2024年10月は海外投資家によるインド株式の売却が急増し、下落が大きくなりました。ただし、海外投資家の売りは落ち着きを見せ始めているほか、今後は2024年6月の総選挙の影響で遅れた政府支出の加速などにより経済活動や企業業績の回復が期待されます。また、2月7日の次回の金融政策委員会で利下げが開始される可能性もあります。次ページ以降で詳細についてご説明します。

2020年以降のパフォーマンス（現地通貨ベース）



期間：2019年12月～2025年1月、月次（月末値、2025年1月は16日時点）
 インド株式はMSCIインド・インデックス、先進国株式はMSCIワールド・インデックス、
 中国株式はMSCIチャイナ・インデックス、全て配当込み
 （出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

（ご参考）インドルピーの対円レートの推移



期間：2019年12月～2025年1月、月次（月末値、2025年1月は16日時点）
 （出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

②国内外投資家の売買動向と企業業績について

海外投資家による売り圧力が一服

2024年9月末以降のインド株式調整の背景の一つとして、9月末から10月中旬頃にかけて中国で景気刺激策の発表が相次ぎ、海外投資家がインド株式から中国株式へのリバランス（投資比率の再調整）を行なったことが考えられます。海外投資家は10月に月間で過去最大規模で売り越しましたが、12月には買い越しに転じるなど、海外投資家の売り圧力は落ち着きを見せ始めています。過去を振り返ると、海外投資家による大規模な売りが一巡した後は、インド株式が上昇に転じました。

他方、インドでは国内機関投資家による株式への資金流入が続いており、これが株式市場を下支えています。

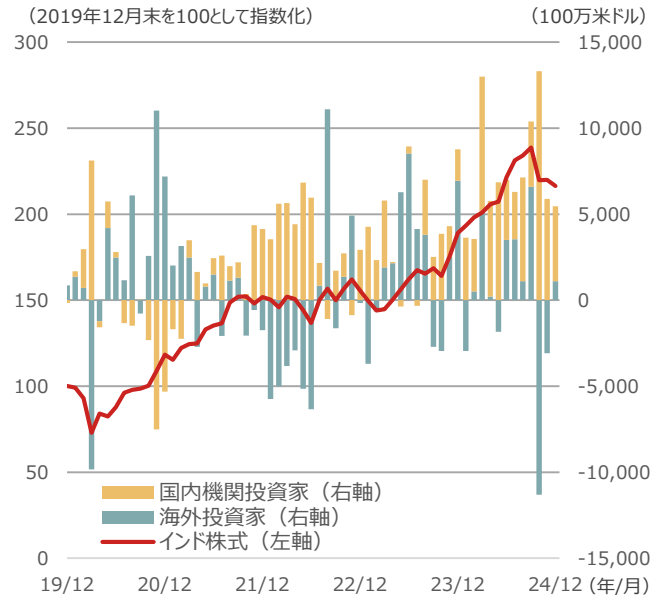
企業業績の改善が期待される

2024年7-9月期の企業業績が市場予想を下回ったことも株価調整の背景となりました。2024年6月の総選挙で議席数を減らした与党が協力政党に配慮し、インフラ投資などに使われる政府支出が抑制されたことが景気の下押し圧力となりました。

しかし、2024年10-11月に行なわれた各州地方自治体の州選挙で与党が勝利したことなどを受け、抑制されてきた政府支出が2024年度末※にかけて増加し景気拡大を後押しすると期待されており、2025年1-3月期には企業業績が改善すると予想されています。

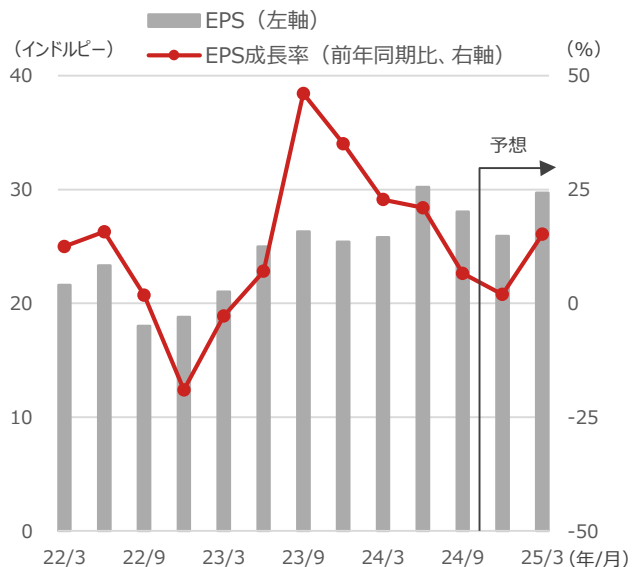
※ インドの会計年度は4月～翌年3月です。

インド株式への国内機関投資家および海外投資家の資金動向（米ドルベース）とインド株式（現地通貨ベース）の推移



期間：2019年12月～2024年12月、月次（月末値）
インド株式はMSCIインド・インデックス（配当込み）
（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

インド株式のEPS（1株当たり利益）と同成長率の推移



期間：2022年1-3月期～2025年1-3月期、四半期
2024年10-12月期以降はブルームバーグ予想（2025年1月15日時点）
インド株式はMSCIインド・インデックス
（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

③ インドの金融政策について

景気下支え策として期待される中銀の利下げ

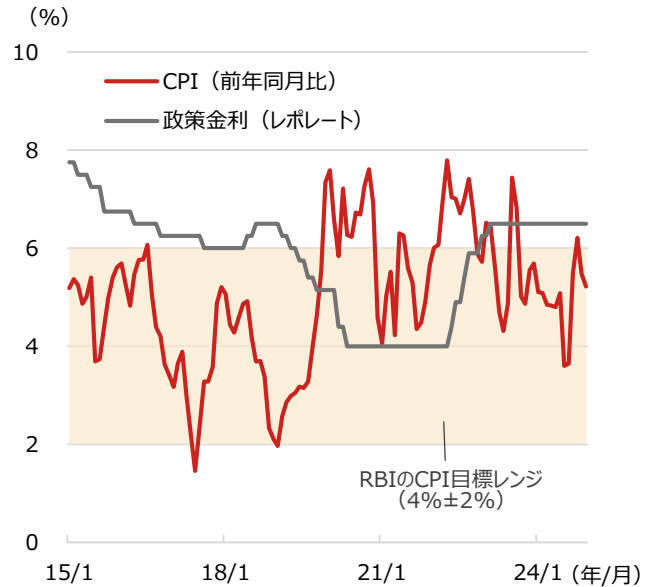
2024年12月にRBI（インド準備銀行）は政策金利を6.5%で据え置いた一方、預金準備率を0.5%引き下げ、成長支援へ向けて流動性の緩和に動き始めました。2024年12月のCPI（消費者物価指数）は速報値で5.2%とRBIの定める目標レンジ内（4%±2%）に2か月連続で収まっており、景気下支え策が求められていることから、2月7日の次回の金融政策委員会ではRBIが利下げに踏み切る可能性があります。

過去の利下げ局面では、インド株式は堅調に推移

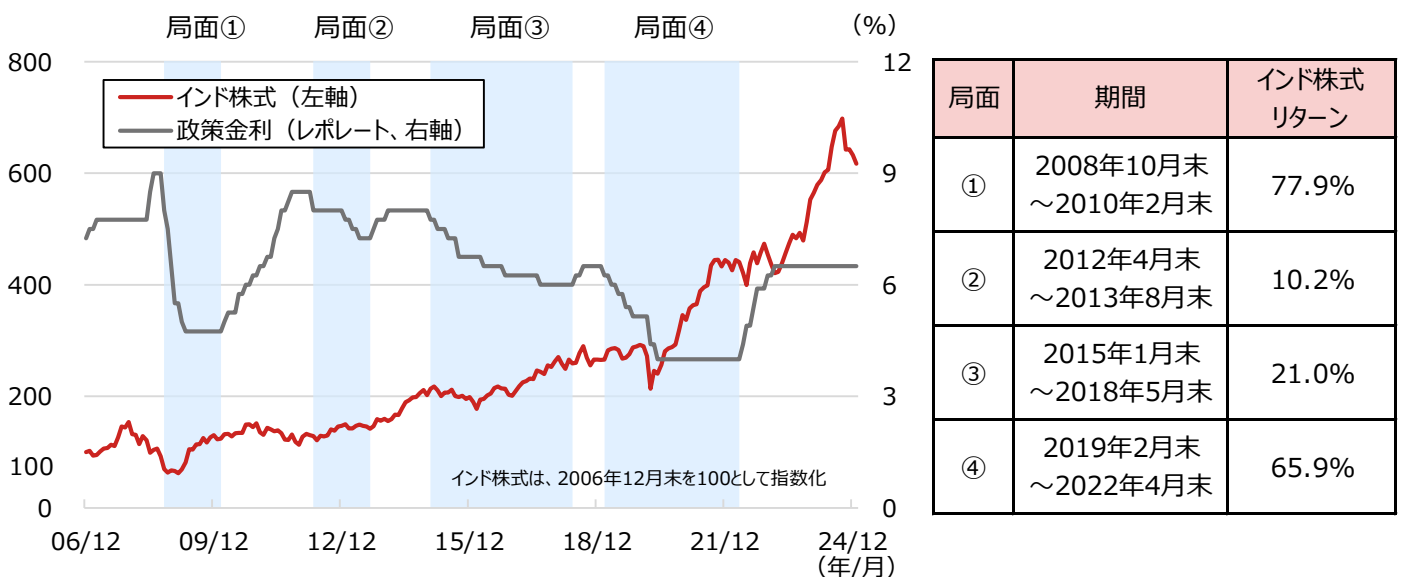
インドの過去の利下げ局面（利下げに転換した月末～利上げに転換した月の前月末）を振り返ると、2007年以降はいずれもインド株式が上昇し、堅調なパフォーマンスとなりました。

中央銀行による利下げは、借入れコストが低下して企業の設備投資や個人消費が活発化するなど、経済活動を刺激する効果があると言われています。今後RBIが利下げに転じる場合は、インドの高度経済成長を後押しし、株式市場への追い風となることが期待されます。

インドのCPIと政策金利の推移



インドの株価指数、政策金利の推移と、過去の利下げ局面におけるインド株式のリターン（現地通貨ベース）



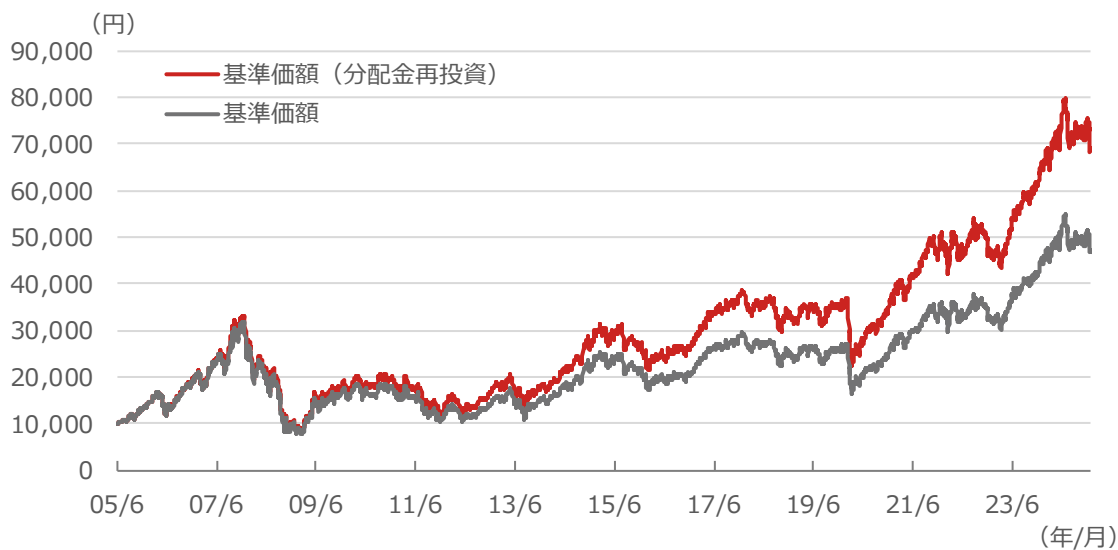
上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

ファンドの運用状況

基準価額の推移

期間：2005年6月22日（設定日）～2025年1月16日、日次



基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行いません。
 - **インドの企業の株式(DR(預託証券)^{※1}を含みます。)**を実質的な主要投資対象^{※2}とします。
※1 Depository Receipt(預託証券)の略で、ある国の株式発行会社の株式を海外で流通させるために、その会社の株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいいます。DRは、株式と同様に金融商品取引所などで取引されます。
※2 「実質的な主要投資対象」とは、「インド投資ファンド マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
 - **株式への投資にあたっては、インド企業の株式を中心に収益性、成長性、安定性およびバリュエーション等を総合的に勘案して選択した銘柄に投資します。**
 - ・ ファundamentalを重視したアクティブ運用を行なうことでベンチマーク(MSCIインド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)[※])を上回る投資成果を目指します。
※「MSCIインド・インデックス(税引後配当込み・円換算ベース)」は、MSCI India Index(税引後配当込み・現地通貨ベース)をもとに、委託会社が円換算したものです。
- 指数の著作権等について ■

MSCI India Index(税引後配当込み・現地通貨ベース)は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI に帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ ポートフォリオの構築は、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を中心とし、トップダウン・アプローチによる業種判断も加味して行いません。
- **株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。**
 - ・ 現地市場が休場等の場合や市況動向によっては、一時的に株式の実質組入比率を引き下げることがあります。
- **実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。**
- **ファンドは「インド投資ファンド マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。**

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める「信用リスク集中回避のための投資制限」に定められている「特化型運用」を行なうファンドに該当します。
当ファンドが実質的に投資対象とするインドの株式市場には、寄与度(市場の時価総額に占める割合)が10%を超える、もしくはを超える可能性が高い銘柄(支配的な銘柄)が存在すると考えられます。
実質的な投資が支配的な銘柄に集中することが想定されますので、当該支配的な銘柄の発行体に経営破綻や経営・財務状況の悪化等が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

- **マザーファンドの運用にあたっては、ノムラ・アセット・マネジメント・シンガポール・リミテッドに、運用の指図に関する権限の一部を委託します。**
- **原則、毎年7月11日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。**
分配金額は、原則として基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。
 - * 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

「野村インド株投資」

【投資リスク】

ファンドは、株式等を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 無期限(2005年6月22日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則7月11日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ●ご購入単位 ●ご購入単位 1万円以上1円単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位
(ご購入コースには、分配金を受取る一般コースと、分配金が再投資される自動けいぞく投資コースがあります。原則、ご購入後にご購入コースの変更はできません。)
※お取扱コース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ●ご換金不可日 ●ご換金不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、「インドのナショナル証券取引所」の休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金の各お申込みができません。
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2025年1月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.3%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年2.2%(税抜年2.0%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入資産等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時)	1万口につき基準価額に0.5%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

«分配金に関する留意点»

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかつた場合も同様です。

<当資料で使用した指数の著作権等について>

- MSCIワールド・インデックス、MSCIインド・インデックス、MSCIチャイナ・インデックスはMSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

NOMURA

野村アセットマネジメント

設定・運用は

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎ 0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<https://www.nomura-am.co.jp/>



【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

野村インド株投資

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3198号	○			
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

野村インド株投資

以下は、取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。

お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社UJ銀行 <small>(委託金融商品取引業者 きらぼライフデザイン証券株式会社) (オンラインサービス専用)</small>	登録金融機関	関東財務局長(登金)第673号	○			
株式会社きらぼし銀行 <small>(委託金融商品取引業者 きらぼライフデザイン証券株式会社)</small>	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○		○	

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。